

## 本時のねらい

「自分の好きなこと」を Keynote にまとめてプレゼンテーションすることで、「聞き手を意識したプレゼンテーション作成の力」「発表する力の」「興味をもって聞く力の向上とクラスの集団づくり」をめざす。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・Keynote などのスライドアプリを用いることで、自分の考えをまとめやすくなる。今回は、テーマが「自分の好きなこと」という、生徒たちの内面をテーマとしており、それを表出させた上で他者に説明することは非常に難しい。しかし、タブレット上のスライドなら自分の頭で思い描いているものを表現しやすく、結果的に発表も円滑に進めることができると考えた。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット端末 (iPad)      ・Keynote      ・ロイロノート

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が作った Keynote のスライドを確認し、一度プレゼンの練習を試みる。</li> <li>○担当教員の「Show &amp; Tell」を発表。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習はペアでタブレットの画面を見せながら練習。</li> <li>・教員のプレゼンテーションが良い見本となるように、話し方等を工夫する。</li> </ul>
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表順を決めて、「Show &amp; Tell」を行なう。</li> <li>○聞く姿勢・話す姿勢などについて、それぞれポイントを示しより良い雰囲気の中で、自分なりの発表を行う。</li> <li>○聞いている生徒は、好きなことを教えてくれて「ありがとう」、好きなことをみんなの前で言うことができ「おめでとう」の声かけと拍手を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のタブレットをスムーズにプロジェクターにつなげられるよう準備する。</li> <li>・生徒それぞれの ICT スキルを見極め、Keynote スライドの技術が向上できているか確認する。</li> <li>・アニメーションや画像をわかりやすく使用して、他者への伝え方を工夫している。</li> <li>・動画や音声入力などを行っている生徒もいて、生徒に一定の裁量を与えることで ICT 活用力の向上を図る。</li> </ul>
まとめ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本日のふり返りをロイロノートに行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートでのふり返りシート提出。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



作成したスライドの最終確認をしている様子



プレゼンテーションの練習をペアで行っている様子



クラス全員の前でプレゼンテーションを行っている様子

## 児童生徒の反応や変容

- ・こちらからスライドの作り方を指定せず、自分のこれまでの経験や、友達との教え合いの中でスライドを作成させたことで、一人ひとりが主体的・対話的に取り組み、スライド作成スキルを高めることができた。
- ・スライド内のアニメーション操作や画像・表の差し込みなどについて、ほぼ全員の生徒が積極的に活用し、スライドを作成できた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・前提としてタブレット使用に関するルールや情報モラルの指導と共有が必要である。
- ・学校全体で Keynote などのスライドアプリ使用による発表の授業を多く実践している場合、生徒にスライド作成について一定の裁量を与えた上で取り組んだほうが良いと感じた。スライドの作り方や条件などは示さず、生徒の自由な発想を大事にすることで、「自分の好きなこと」という抽象的で表出しにくい課題にもチャレンジすることができる。